

機関リポジトリは大学に何をもたらすか

土屋俊
(千葉大学)

東京歯科大学 第57回歯科医学教育セミナー」
(2006年10月23日)

主な話題

- 背景と若干の歴史
- 技術事情
- 現在の状況
 - 日本
 - 世界
- 期待される効果
- そのための取り組みの現状
- 展望

定義(Lynch 2003)

a university-based institutional repository is a set of services that a university offers to the members of its community for **the management and dissemination of digital materials created by the institution and its community members.**

ie. Organizational commitment to stewardship of digital materials:

- organization

- access or distribution

- long-term preservation

背景

学術出版の変革

学会・商業出版社刊行雑誌の価格高騰を抑制するために研究者コミュニティに根ざしたオープンアクセス方式の学術出版を図書館側から提案

研究助成の説明責任

提供側にとって 納税者に対して助成の妥当性
受給側にとって 助成者に対して成果の妥当性

大学の活動の社会還元

- 研究成果
- 教育資源の開放

何をするのか

- 研究成果の収集
 - 既発表論文(peer reviewed postprints)
 - 発表されていない論文(preprints)
 - 非論文成果物 (作品、上演、設計図、特許、、、、)
 - データ・データベース
- 機関という切り口
 - 論文とその背景
 - 研究と教育を総体として
 - 大学としてのプレゼンス

世界の状況

- OpenDOAR
 - SHERPA@Nottingham University
 - JISC funded
- Oaister
 - @University of Michigan
 - **9,624,092 records from 698 institutions**
(updated 18 October 2006)

OpenDOAR登録の日本のリポジトリ

Chiba University (千葉大学) - <http://www.chiba-u.ac.jp/e/>

Chiba University's Repository for Access To Outcomes from Research (CURATOR)

<http://mitizane.ll.chiba-u.jp/curator/>

Hiroshima University (広島大学) - <http://www.hiroshima-u.ac.jp/>

Hiroshima University's Repository for Access To Outcomes from Research

<http://ir.lib.hiroshima-u.ac.jp/portal/>

Hokkaido University (北海道大学) - <http://www.hokudai.ac.jp/bureau/e/index-e.html>

EPrint Series of Department of Mathematics, Hokkaido University

<http://eprints.math.sci.hokudai.ac.jp/>

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers (HUSCAP)

<http://eprints.lib.hokudai.ac.jp/dspace/>

Institute of Developing Economies, (JETRO) - <http://www.ide.go.jp/>

Academic Research Repository - Institute of Developing Economies (ARRIDE)

<https://ir.ide.go.jp/dspace/>

Kanazawa University (金沢大学) - <http://www.kanazawa-u.ac.jp/>

Kanazawa University Repository for Academic Resources (KURA)

<http://dspace.lib.kanazawa-u.ac.jp:8080/dspace/>

Keio University - <http://www.keio.ac.jp/>

KOARA (KeiO Academic Resource Archive)

<http://koara.lib.keio.ac.jp/>

Kumamoto University - <http://www.kumamoto-u.ac.jp/>

Kumamoto University Repository System

<http://reposit.lib.kumamoto-u.ac.jp/>

Kyushu University (九州大学) - <http://www.kyushu-u.ac.jp/>

Kyushu University Institutional Repository (QIR)

<https://qir.kyushu-u.ac.jp/>

Nagoya University (名古屋大学) - <http://www.nagoya-u.ac.jp/>

Nagoya Repository

<http://ir.nul.nagoya-u.ac.jp/>

University of Tsukuba (筑波大学) - <http://www.tsukuba.ac.jp/eng/>

Tsukuba Repository (Tulips-R)

<https://www.tulips.tsukuba.ac.jp/dspace/>

Waseda University (早稲田大学) - <http://www.waseda.jp/>

日本の機関リポジトリ

- 千葉大・北大・早稲田大学
 - コレクションの特徴
 - 千葉なんでも・北大既発表論文・早稲田博士論文
- NII/CSI 事業
 - Cyber Science Infrastructure
 - (図書館対象)公募事業
- 独自のアプローチ
 - 農林水産省研究情報センター
 - JETRO
 - 物質・材料研究機構

電子図書館」と機関リポジトリ

- 日本では1990年代に「電子図書館」プロジェクトがあったが、普及しなかった
 - 貴重資料の電子化にとどまった(筑波大学では論文を収集しようとしていたが、、、)
 - 教育との連携が視野になかった
 - メタデータの問題、実装が未熟であった
- 機関リポジトリでは、
 - メタデータがハーベストできる仕組みを前提としている
 - 教育との連携が重視される
 - したがって、1990年代の問題は克服されている

千葉大学CURATORにおける試み

- 学内出版物の体系化
 - 紀要の遡及電子化
 - “Overlay journal”化の推進
- 教員業績データベースとの連携
 - CUFA/CURATOR
 - CURT/CURATOR
- 学外サーチエンジン・データベースとの連携
 - Scirus/SCOPUS
- eScienceへの展開
 - 工業意匠
 - 気象衛星データ

千葉大学における教員・図書館連携

- 研究活動に注目して、出向いて、欲しがる
 - 図書館活動全体として、LIAISONを重視
 - 新しい資料の発見
- コミュニティ形成支援
 - Social Bookmarking
 - 業績整理支援(RefWorks等)
- 教育内容への関心
 - E-learning
 - Pathfinder手法の実践へ

医療・健康分野の特徴

- 公的助成がやりやすい
 - 国民、納税者の全体にかかわる
 - 金額が大きい
 - 成果に対する関心が高い
- 公的助成なのでやりにくい
 - 高等教育機関でやるべきか、助成団体でやるべきか
 - NIHの動向
 - Wellcome Trustの動向
 - Australiaの動向
 - 医療健康分野を超えて :FRPAA

著作権の問題

- 大学による公開は、著作権者の許諾によって行う
 - 著作権が、出版者に譲渡されていない場合 著者自身から得ればより(著者は機関内の被雇用者(学生は微妙))
 - 著作権が、出版者に譲渡されている場合 権利者から許諾を得る
 - 出版者の利益の侵害になる可能性
 - しかし、94%がグリーンジャーナル(本人ウェブサイトまたは、機関リポジトリへの掲載を事前包括許諾)

評価との関係

- イギリスでの動向
 - 下院での議論、RCUKの動向（[リポジトリの登録へ](#)）
 - 引用件数との関係（分野別の異なり等はあるが、一応増加しているらしい）
 - RAEとの関係
- 一般論として、
 - 研究成果およびそのバックデータを公開することによって、説明責任（改ざん、剽窃等）の批判に答えることができる
 - 成果を参照可能にしておくことより外部評価作業の品質を保証することができる